



虚飾を得ること

令和8年2月3日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

企業経営において虚飾を得ることは、現実への理解を失うことであり、必ず誤りを得るものである。

これら真剣さが企業の正しい合意であり、結果という現実を得る唯一の選択である。

これら正しい風土の育成は、経営者が自己においてそれを行う以外ないのである。

これら正しい企業運営と環境の育成は、それら虚飾を求めないことなのである。

これら態度は、正しい現実を求め行うことができるのである。

これらが、時代と現実への正しい判断を得る唯一の現実なのである。

これらが勤労性という企業のもっともな美德である。

これらが経営における厳しさの要求であり、企業が生き残りにおいて自己を求める限り、それを離れることは不可能である。

企業経営において真剣さが唯一の道である。それを失うことは競争原理における現実において、自己を失う以外できないのである。

これらへの考察は、現実への理解を失うことは、自己中心的な判断において経営の正しさを失うためであり、経営者においてもっとも留意されなくてはいけないものである。

これら本来の正しい企業環境と風土の育成は、勤労性という必要性において企業経営の要求が存在することなのである。

これらが時代性ととも企業確立を与え、その持続性はコアコンピタンスの育成とともに実現できるのである。